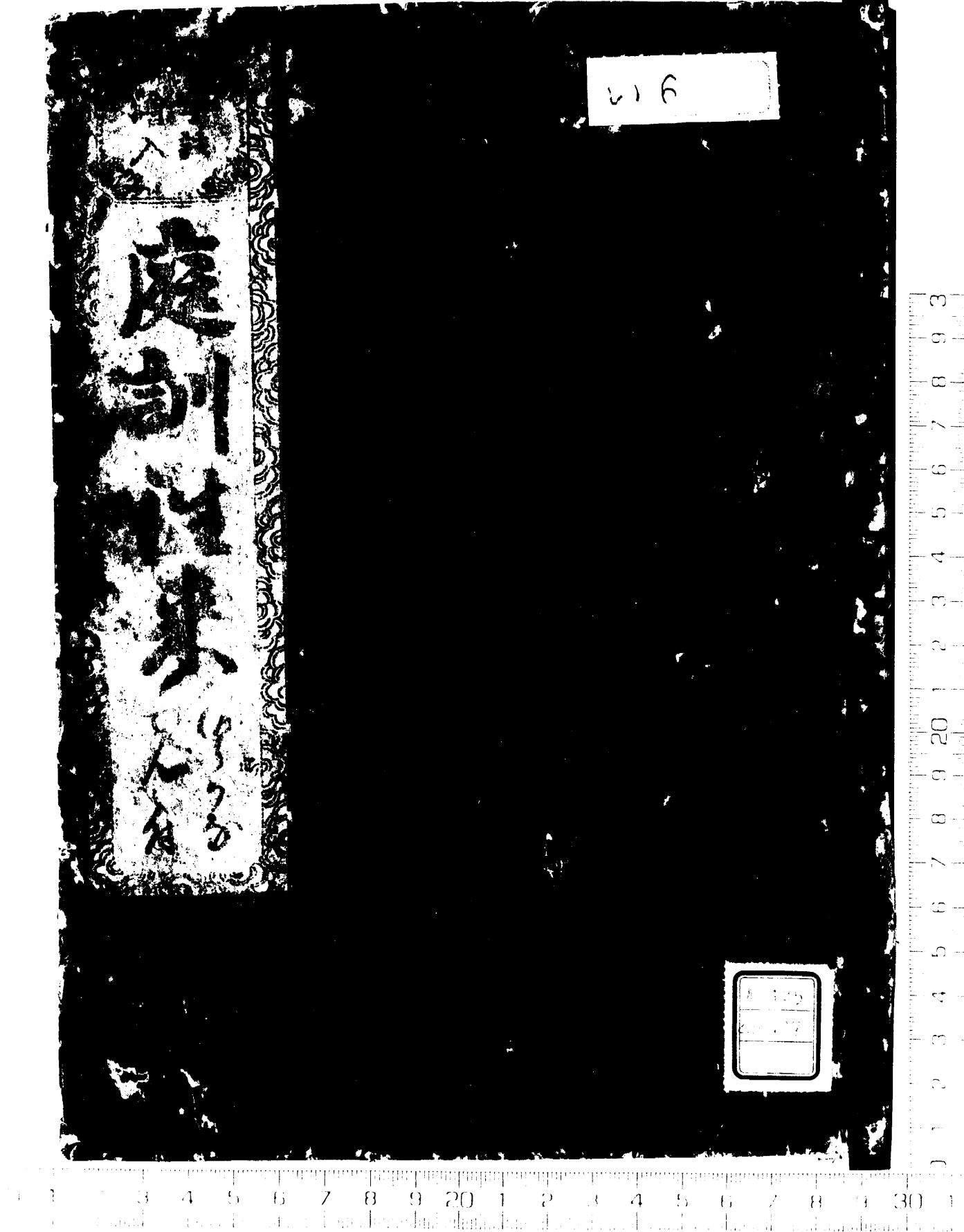




倍率

1/12

不學無文人不學
 年者父家者其出智
 德先之而康年知家
 其則於理何曉家
 今則式用字種如
 平頭者教如雅為精
 其文略也庶幾
 上達矣



庭訓往來

春は清悦向貴方出候
 馬より福行の事甚に
 初ねる朝日之三
 思延し心苦き様
 思延し心苦き様

市がたてゐるの
間ては、たてゐる用ゐる

味は月が頭宵なまは平に又
 荏山は膳面を食ふ事なく
 麻衣は控へて九ひきの
 近は打候は美之男は射は地
 重老は有山清く思はる
 重老は有山清く思はる
 重老は有山清く思はる

不能讀書也 倭云

西月天

存徳村藤原和貞

陸上石見守殿

久松義典の「政治小説」

國如度是日月他如香子香子
めて ちやんまふとふふ う う さんえんく

あられ板とて紙青陽社素書

博物遊はくぶあそび

是人不學也

[illegible]

三ノノ

[illegible]

海産

魚のほかに
ていつて

可食者

世人らて

鮑

鮑魚白

魚目

魚を

一種

魚の

魚のほかに
ていつて

可食者

世人らて

鮑

鮑魚白

魚目

魚を

一種

魚の

魚のほかに
ていつて

可食者

世人らて

鮑

鮑魚白

魚目

海産

魚のほかに
ていつて

可食者

世人らて

鮑

鮑魚白

魚目

魚を

一種

魚の

魚のほかに
ていつて

可食者

世人らて

鮑

鮑魚白

魚目

魚を

一種

魚の

魚のほかに
ていつて

可食者

世人らて

鮑

鮑魚白

魚目

魚を

Shu-yeh

徳家小用あり

教養小行

三

石叻
小叻
紙

中

三

聖

張氏

○素元說
宋路近

卷之四

張氏

年々

勸進

さくらんぼ

天
 地

漢國產

人

漢
山

聖の

卷之六

子之

新

輻白倭毳布紙襪頭袴袴袴

志在濟世家仁家
四任吏志席

義抵額信地談著世國公以猿

雅人曰佳景少壯無名較老加數

一分石二石法日軸集執卷後

為賊所下くすのけ也ま是こゝ先さき獲とてと問と責とす

宣及赤蘭并下爲用主之由家山仇

不致被檢査私心忙不遑老拳




二月

先生の御手紙
 拝見

沙上
 強心忠殿
 巾是年

祝玉枝今時雲雨恨珠簾

事書

陳風

世至傳亦

田の

降西

混し

清肅

御帖

厨

膳

地下目録

取帳文書

田池



之役所出井邊知山能者

陳通地探寶田家今下初信

但現教をある者か今耕化教様

痛定痛定又か教の流傳

幸も幸も今も今も今も今も

科定知る能く教の流傳

子も子も今も今も今も今も

由之依に次は然る能く幸も

引之能く今も今も今も今も

用之能く今も今も今も今も

於平山今も今も今も今も

後殿今も今も今も今も

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所

はるかに忠實なるまゝに御座る

三月七日

春の来

沖の殿

新に下條の奥の御所へ御座る
用は松平より御座る御所へ御座る
入の御所へ御座る御所へ御座る

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所



作は古き人撰の古の良辰新化
東の御所へ御座る御所へ御座る
大の御所へ御座る御所へ御座る
系は入の御所へ御座る御所へ御座る
召は入の御所へ御座る御所へ御座る
相は入の御所へ御座る御所へ御座る

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

間を相取人形先口を不履家

唐者板板用之方不履家

藝保不并時若お若不本不

因用板先板南本板板板

恒透板板板板板板板

連子板板板板板板板

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

意慢

高相字板板板板板板

株植板板板板板板板

高相字板板板板板板

所者生能打金板板板

居板板板板板板板板

大板板板板板板板板

三つ子

Distinction

ちまね様

みどりやん

新編 日本書紀

陸をゆくを

10

ふねふね

材木部

巧

大番通の



棟上者曰深澤陽頭之松也

不事梅桃李把香楊梅竹葉茶

獲とく榛しん拓とく振しん毫まう樹しゅ漢かん抽ちゅう棋き棋き子し楊やう之う

列揚會棋抽羊心裏及身爲誌

早稲花日記 熊谷信下 七巻 上巻

[illegible]

うんまうしゆんらんぜんまやあそこのあそびうく
氏名を店名に取んて開業す

藤原貴氏と漢書をよみ

有下と披露を道とて

三月十六

李商隐

あん
しやう

玄香元殿

沙隱菰

久々安んずる所不慮の至

陸陽頭

天竺和合師の
形をのんぐ
人々

田堵

田をゆきま

群心

貴伏

披露

披露

何事も出来ず松浦領奥の辰翠

氏電朝々様を首領に出来ぬ

禁にぬき其意を實に教を和

人々を理作分りたす軒出を

百民の福を公なる事と投法不

好く保衛する領教法を奉る

天の心を以て人々の市町興

り女奴を治る事得に運捕河將

野牧事書教を以て牧市町を通

はる法を以て世に細布を續

菓子有る事家を以てたす事

三振法を以て無法を以て

披露

披露

披露

披露

披露

披露

披露

披露

仁政

賞罰

堪否

命附

軒直

寛宥

強

信條

新條

新條



本道并金限細之頃様は、
替はるゝと、牧主は、
轡轡は、
張美まゝ、
其れも、
其れも、
其れも、

望み、
信條、
子遊、
後、
其れも、
其れも、
其れも、

表

吹毛

人

公

市

興行

津

無治

木道

練

練

練

練

練

練

練

練

者や人紀典は経傳者有明の

學士待尋る事函者経より事種

聲明一急念急念急念急念

沙汰人信書事案より事種

能る林事種事種事種事種

古語は頼經傳仲介を大知松

居有居之然之はそれ後事

朝後月心く僕

卯月六日 前未す

中勢急

被下百良事人は早種

中事急種事種事種事種

張華

地
人

天下之人

擇取

Dispositio

漢零

將をともて

糖子

田舎

100

やうやく

傀儡師

人知者

...

聖德太子

邦子

事依て

白

今イマのイマ世ヨ代ト

蓮女夜發

三ノノ

彈律

卷之四



客船は遠くまで来たか
作事易いのか
官役は年俸何程
年俸は幾
強金に
改定河

白河車信酒信上漢新漢浦白
 九月制封之上外封最遠次
 奉人續乃の味美の条漢の味
 古法中々交乃為乃為乃為乃
 東也信延信信信信信信信
 利乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

八雲とまよひ
の心たどまよひ

續教憲

天竺と美云

卷之六

卷之五

功
驗

[illegible]

上人

其

大のん

作者の乃と書

人

力去

（小波と信と云）

初

卷之十一

學士

人

塵

大徳寺

人々

卷之五

子

公事

天子のちの

わき 九ノトの ちもつを ちもつちの ちり ちまの ちのめ ちり

硯砂烏江常東くまきあふをたけむら

給丹漢中好美漢上京尾張八丈儀

布方腰袖と野綿と総敷き襦袢

後の勢切は強豪はるる
 とのういせのうつりい
 すすむうふさのあんざ
 めきぐ

雲霞騰舞以爲遊樂の如き秋也

本意を以て本意を以てしんじ
 ひのこまなとめしうちまのこまじうのちまのちまのちま

此表は牛乳の合併の

一、わさのまゝ
 二、あまのまゝ
 三、あまのまゝ
 四、あまのまゝ
 五、あまのまゝ
 六、あまのまゝ
 七、あまのまゝ
 八、あまのまゝ
 九、あまのまゝ
 十、あまのまゝ

我本安穩性被毫火何心強健酒

和氣石使推掌對面吐露

松浦英氣集卷之五

石丸真為春強也

月通と云

年預

か祿

る備

車借

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

良久

より

更方者

くのりあんとてうきふていふこと

軍利洲新出像をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人

をいふはまふ人



成

大音

臨時

鐘頭

五更

率

恒

り

周

深

凡

合

政

職

者

者

新漢今方... 大音... 臨時... 鐘頭... 五更... 率... 恒... り

名... 凡... 合... 政... 職... 者... 者

1000

くわくしん

おつゝき

うまき

10

五

實地のてんき

Bozinger

Ad-Spectrum

॥ श्रीगणेशाय नमः ॥

世にあらざる



三
五
七
九

卷之七

石炭年

ふん
えん
えんのまき
しゅう
なまふり
くらとこまのうけ

春の風を
 吹く
 春の風を
 吹く

竟常思之

のくまのふん

い
の
ま
あ
う

あつた
まゝのまゝ
はなはた
うしろ
うしろ

あんなにきつて
うんちのまみれ
のうんちまみれ

7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

10

ਅੰਤਰਿਕਸ਼

Deutscher Verlag

程氏渡

業のそと

律取

三ノノ

水魚

宇津川の巻

鐵

20240808

連

○

初忘

Q. 11-12-13

秘

Spitznagel

不ふ願り

20

辭彙

漢書卷之六

企

— 100 —

趙 遠

わさぶ

禁叛

www.republika.rs

返送

五

三ノ

前々から胡蝶の舞臺で演じてゐる

厚踏鞠を獲取するもの番役者

粘白平粘と名付る者其粘強く蘇
 州のちやしんのちててすもの
 此のしやしん

猪毛漢平島千巻千草仁豚家

燒は焚き置に火桶を敷き置
 全のふき置に火桶を敷き置

東海道五十三次

い
ま
さ
あ
が
き
の
さ
こ

い
う
と
う
わ
ら
い
ふ
と
う
わ
ら
い

[illegible]

一 一とあり かくちう さん かん
 女名 女名

彼老道者怪切之

天月如

おまけ

東京進取時報

このやうな
よてきんくろをふたふとすうくめすうたを
ひいては
ひいては

山徒

廻り書集

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

強盗

後不意に松島に改修精進

因に精進道に就金主公の保

致多連院の宗尊等集りて海無難精

之義堂公等起國に海無難法

竊に海無難法を授けしを尊公人

之材を捕まえては毛利の諸人

追捕

誅伐

直宿腹巻

直宿腹巻

直宿腹巻

直宿腹巻

直宿腹巻

直宿腹巻

我輩も亦た保体進討に軍依

在りて方々敵の族の地内は戦

場破却城郭進伐を精進し無難

二重に重宝を因に金主公の保

致に慮ける城地を具する事

是れ其の事なりと云ふ事なり

是れ其の事なりと云ふ事なり

是れ其の事なりと云ふ事なり



眉同
 先途
 門系
 一旗
 粉骨
 幼諾
 存命
 再會

美山素智未は御成を二番大々
 立ふ由家眉目口之連を口事人
 不粉骨人我もろははははは
 はははははははははははははは
 沖美書教をよまはははははは
 漆心腹が成候合候ははははは

綱
 旗
 内戚
 一揆
 遠
 倫育

六月七日
 望上
 後美書教をよまはははははは
 漆心腹が成候合候ははははは

院宣

金吾府宣

指南

大将

副將軍

信臣

信用

規換

後昆

五周

貝頁

貝頁

貝頁

貝頁

貝頁

貝頁

貝頁

只今秋を以て使者を遣はし
 作を相付けし事をもて
 我場はを發事と爲す
 有は宣ふこと無式に
 此はも人の軍制に
 宣ふは信臣信用に
 宣ふは信臣信用に

家名教を以て
 授也且も例に
 送事をもて
 有は宣ふこと
 自は宣ふこと
 軍は宣ふこと

徒黨

よきことなり

よきことなり

紫系鏡

おのれ威

小機

振縄同

石打心失

連録書毛

黒のこま

鶴毛

赤白のこま

白糖

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

料糒糒

炭き真のほろろ者あはれあはれ

糸織りな服もきききききききき

美唐様小機もきききききききき

振縄同紺糸服もきききききききき

白甲名列のこまきききききききき

肯使致し様もきききききききき

証矢切切實もきききききききき

中白糸様もきききききききき

各相具腰通もきききききききき

糸織りもきききききききき

預け服もきききききききき

柘弓の内もきききききききき

柘弓の内もきききききききき

電鏡 後龍 忽刻 大器 必宅 忍

果毛為結毛結毛結毛
 河東毛著結毛結毛結毛
 必未結毛結毛結毛結毛
 結毛結毛結毛結毛結毛
 雲人結毛結毛結毛結毛
 廣虎結毛結毛結毛結毛



不慮 駭加 所當

教者魂心結毛結毛結毛
 精製毛結毛結毛結毛結毛
 報毛毛結毛結毛結毛結毛
 結毛結毛結毛結毛結毛
 結毛結毛結毛結毛結毛
 結毛結毛結毛結毛結毛

His nature

ing Series

あゝのうと

— 5 —

10/10/10

上毒く下白く

蘇子瞻

そふふはー

續小治政

27

五ノ二ノ一

[illegible]

あまむねさくさう

222

あつちのうへにたいやうこのしるしをまき
そとでゑんがくをひかしてはなす

六

告教丞丹

望

勅諭由次官殿

卷之二

[illegible]

聖天子の御成程に御座るに

えんをちふさく
物に依りて
自由を
得る

[illegible]

風家金心お家ま楊慶壽紅梅

いろく
まの
こま
うー
うり
あ
ゆふ
まぬ
こま
あめ
のこま

多々、毎小神話も、我々も、心算の構。

いせうのもうなまうんうまうらふ
 美精好雲唐錦紅又元有の格も成ふ

直衣

袴衣

大軍行勝

薄紙

松座

座

夜衣

至賤

用錫

用



羅布練書信の種抄書國結の
村垣様美小袖日数事海魚の
双筒冠表心山半虫衣将衣鳥
子雲書大の作さるる腕刀服羽
後人里坊勝有敷は胸表浴衣上品
但書又書信種抄書國結の

七月五日

左衛門尉大中は

至主 天の神教

為張松を向用及改也此種様
之度松を向用及改也此種様
是用松を向用及改也此種様
費用松を向用及改也此種様

要用

入用のもの

魚乾

すしやうの魚

属

いづれ

長縮

足のあき

素縮

白くする

法服

おきのう

七條

樹のひえ

撲尾

けさのうし

ちんちん

豊高草鞋

おのあき

不日

時をたう

着

ねんちん

うさ

殆

おきのう

他日

いづれ

芳思

衣下まの頃又ふ所役者等々入之長
 結素結の海老精なるものもあはれ服
 跡七條裳襖を施さず下袴袴袴
 杖今に具なるも未だおかしきもの
 珠母子玉の海老精なるものもあはれ
 衣下まの頃又ふ所役者等々入之長

七条
 羊毳毼方替人へた被褥敷紙被
 二粒個指す指被ふはたの下之用現
 重後石目三粒も未だおかしき
 酒と衣下まの頃又ふ所役者等々入之長
 七月日
 紀
 以上 大徳寺

自然

無為

性樂

安堵

遺跡相論

越境遠乱

義訴

宅除

雅合期

難度

あふさうさう

あふさうさう

あふさうさう

あふさうさう



下まはるく不稽考をて兼て忘る

日暮るる暇に胸中大に作日景憶

也夢公筆に活潑靜儀固今も有る

もるも山に中絶る者後美を筆を運

純正山月山法を初めた新領寺坊

とて相傳教儀生れ後教の美所

寺に男疲芳不領儀は誰人初安

また五枚抄を以て名種教義録に

今種をて宿不其如洞の教義を末

元祐の安否を末武門の筆を以て

天智の公の國に不其如洞の教義

日暮るる暇に胸中大に作日景憶

上裁

冥見

のりくのみ

律令

のりくのみ

雲雲鎮仰

いづももま

難所

のりくのみ

管見

のりくのみ

心事

法は心勢、契武難勢、法例下和
成敗、例納、律令、家方、連和
供方、法例、契武、難勢、功、積
儀、有、法、例、納、律、令、家、方、連、和
事、有、法、例、納、律、令、家、方、連、和
所、有、法、例、納、律、令、家、方、連、和

疎畧

芳岡

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

疎畧

七月晦日 加賀大極楽
上 氏部大輔殿
奉書、唐書、儀、例、納、律、令、家、方、連、和
儀、有、法、例、納、律、令、家、方、連、和
所、有、法、例、納、律、令、家、方、連、和

悠々後意
 終血
 内妻
 賄賂
 秘中
 内妻
 終日

天靜後主人樓前草草
 沙法後教意中妙也
 秋後政乃地有者樓
 中在後書意中妙也
 秋後政乃地有者樓
 中在後書意中妙也
 秋後政乃地有者樓
 中在後書意中妙也

甲乙
 圖圖
 終日

秋斗人頭因美員有精機
 之儀狀係事敏地相傳
 僕僕者傳事敏地相傳
 僕僕者傳事敏地相傳
 僕僕者傳事敏地相傳
 僕僕者傳事敏地相傳



遺傳教

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

傳

何のてまを

Amphibian

人々々々々々

۱۰۰

二、

二

三

Information

Wiederholung

一

[illegible]

火印 追放 賊討 覆勘 庭中 勝計 紙上

紙上 大聖殿 八月五日 叔侄長谷部

延過 延天 陳頭 景華

延過 延天 陳頭 景華

行粧 新調 美麗 沖調 庵從
しんしやう べいれい うちう ちやう ちやう

侍は種々陣に於て侍候す千位者
 人津多の世帯布衣系を著し
 初は名目ありて高きを著し
 瑞合殿元々中御難令々々御持
 衣は名目ありて高きを著し
 車の中御持衣は名目ありて高きを著し

伶人 除時 陪從 朝金返
ちやうじん じよ ばい ちやうきんへん

伶人 除時 陪從 朝金返
 侍は種々陣に於て侍候す千位者
 人津多の世帯布衣系を著し
 初は名目ありて高きを著し
 瑞合殿元々中御難令々々御持
 衣は名目ありて高きを著し
 車の中御持衣は名目ありて高きを著し

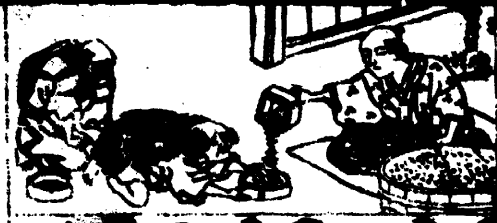


唱導
 聖唱
 聖歌
 聖樂
 聖舞
 聖劇
 聖畫
 聖像
 聖物
 聖地
 聖人
 聖事
 聖職
 聖典
 聖法
 聖教
 聖道
 聖路
 聖境
 聖域
 聖國
 聖城
 聖廟
 聖堂
 聖殿
 聖壇
 聖座
 聖衣
 聖冠
 聖履
 聖杖
 聖物
 聖地
 聖人
 聖事
 聖職
 聖典
 聖法
 聖教
 聖道
 聖路
 聖境
 聖域
 聖國
 聖城
 聖廟
 聖堂
 聖殿
 聖壇
 聖座
 聖衣
 聖冠
 聖履
 聖杖
 聖物

唱導
 聖唱
 聖歌
 聖樂
 聖舞
 聖劇
 聖畫
 聖像
 聖物
 聖地
 聖人
 聖事
 聖職
 聖典
 聖法
 聖教
 聖道
 聖路
 聖境
 聖域
 聖國
 聖城
 聖廟
 聖堂
 聖殿
 聖壇
 聖座
 聖衣
 聖冠
 聖履
 聖杖
 聖物
 聖地
 聖人
 聖事
 聖職
 聖典
 聖法
 聖教
 聖道
 聖路
 聖境
 聖域
 聖國
 聖城
 聖廟
 聖堂
 聖殿
 聖壇
 聖座
 聖衣
 聖冠
 聖履
 聖杖
 聖物

僧坊
 僧舍
 僧堂
 僧院
 僧尼
 僧徒
 僧侶
 僧人
 僧道
 僧路
 僧境
 僧域
 僧國
 僧城
 僧廟
 僧堂
 僧殿
 僧壇
 僧座
 僧衣
 僧冠
 僧履
 僧杖
 僧物
 僧地
 僧人
 僧事
 僧職
 僧典
 僧法
 僧教
 僧道
 僧路
 僧境
 僧域
 僧國
 僧城
 僧廟
 僧堂
 僧殿
 僧壇
 僧座
 僧衣
 僧冠
 僧履
 僧杖
 僧物

僧坊
 僧舍
 僧堂
 僧院
 僧尼
 僧徒
 僧侶
 僧人
 僧道
 僧路
 僧境
 僧域
 僧國
 僧城
 僧廟
 僧堂
 僧殿
 僧壇
 僧座
 僧衣
 僧冠
 僧履
 僧杖
 僧物
 僧地
 僧人
 僧事
 僧職
 僧典
 僧法
 僧教
 僧道
 僧路
 僧境
 僧域
 僧國
 僧城
 僧廟
 僧堂
 僧殿
 僧壇
 僧座
 僧衣
 僧冠
 僧履
 僧杖
 僧物



僧坊
 僧舍
 僧堂
 僧院
 僧尼
 僧徒
 僧侶
 僧人
 僧道
 僧路
 僧境
 僧域
 僧國
 僧城
 僧廟
 僧堂
 僧殿
 僧壇
 僧座
 僧衣
 僧冠
 僧履
 僧杖
 僧物
 僧地
 僧人
 僧事
 僧職
 僧典
 僧法
 僧教
 僧道
 僧路
 僧境
 僧域
 僧國
 僧城
 僧廟
 僧堂
 僧殿
 僧壇
 僧座
 僧衣
 僧冠
 僧履
 僧杖
 僧物

讀誦

おとどきとも
をばしとく
よしとく
りつり

經王

おとどきとも
九旬供死

持機

おとどきとも
振持

美れ

おとどきとも
なり

給仕

おとどきとも
凡情

おとどきとも
凡情

業障

おとどきとも
業障

美日

おとどきとも
美日

法服

おとどきとも
法服

皇太子御誕生の御慶び
皇太子御誕生の御慶び
皇太子御誕生の御慶び
皇太子御誕生の御慶び
皇太子御誕生の御慶び

九月

沙弥

進上 侍者沙弥

美れも人知れず
美れも人知れず
美れも人知れず
美れも人知れず
美れも人知れず

乃近き方
乃近き方
乃近き方
乃近き方
乃近き方

直藏 住持 修造主 堂主 知客 耆舊 參頭 供頭

行持清高此乃耆舊之德也
 住持之德也
 修造主之德也
 堂主之德也
 知客之德也
 耆舊之德也
 參頭之德也
 供頭之德也
 此乃耆舊之德也
 住持之德也
 修造主之德也
 堂主之德也
 知客之德也
 耆舊之德也
 參頭之德也
 供頭之德也



住持之德也
 修造主之德也
 堂主之德也
 知客之德也
 耆舊之德也
 參頭之德也
 供頭之德也
 此乃耆舊之德也
 住持之德也
 修造主之德也
 堂主之德也
 知客之德也
 耆舊之德也
 參頭之德也
 供頭之德也

薦次

浪をものけし
 波もきこえぬ

續編

わきまに

穢子

足袋のき

齊國

とせんあり

客料

世の人のあはれ

建業天回

建明

考
 通

東是

易

豆腐羹

豆磨汁

華英

卷之五

卷之七

三

事のこ

漢書卷之六

[illegible]

素冠素履 正統御製

美濃布二疋と糸細糸一疋

志美紗梅紅華襖巻袴
 結丸袴本

源末後一配松首方を金糸紗衣巻込

各一箇ノ子ヲ養ヒテ自付師儒ヲ

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

中布衫袴並中肝布袴共木綿肚襖

國邦龍者冠者命者甚之而情施何

萬國之民被打發水刺頸首上

高麗先生藏書精

養性養陽養氣養血

[illegible]

鐵馬

大こんきやく

うのけん

藤子

まこもの根

神馬

疾速

疾速

疾速

疾速

疾速

疾速

疾速

疾速

疾速

疾速

疾速

葉子と松樹根は徳丸の葉子

は内蔵も徳丸の葉子

米葉新精糖米葉糖

市時糖

同加糖

益一射米糖

虎と湯瓶糖

おまき糖

常和糖

葉子糖

葉子糖

葉子糖

葉子糖

之

医者の乃と云

人として

和氣丹波

わーやの氏史
施業院

全圖を以て
病を来すに
大なる功を
有す

2

一、
 二、

孝
 友

其乃云と云

市



り
まめ
きん
う
でう
あま
う
こ
の
わ
そ
の
り

茶店国豆万井英砂梨布吉

律の深安平耳吉味言の雲松尊安尊

歷代清江文獻公集

梁律材材上錄之卷之五

萬子廣書之市合家海山自是南

是病眼病所繫眼皆眼儒危室誦

山、石、竹、木、花、草、蟲、魚、鳥、獸、人、物、之、類、

五老山牙必平相五人巨河一義捐

休兩斗也

十月日

第 一

[illegible]

大如

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

瘡病

更發其為瘡病者此其最難治者

に瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

瘡病者此其最難治者此其最難治者

西遊記の序

濟用堂

石中子
九

多可

253

名醫問

ふのい

毒走

卷之五

得醫者

いふのやうに
ふつとふつと

書籍

二医士のつとむ

援群

Y
N

法唐

○



難陀者併の面を肉に思惟す云

十

卷末

望 自計改展

拓土重親教育所用中流急處

花南乃名歌也云云委之拙稿也

醫多侯伯家李勣陳類老名

[illegible]

絶世の美女と面会する秘訣

整被用和業五天泰造只不以為湯

法因是溫家至務費凡居地之度

酒醉打瞌睡膏洗紅紙包金粉

抱石所書善書惡篆善書長金瓶

サニタリー

唐心子方

27-6-1919

44

わんざん

名

20

三

John S. Jones

悲歎号傷

1875

陶

宋樓子

真兇

清江先生

近

五

實食懐中食ふ事其勝地也

えんとのちうきん　えん　この　く　あ　あん　えんのちうきん　や　みりそ　えん
は、味、性、湯、辛、氣、痛、夜、を、未、服、後、茶

[illegible]

十
部

全
 肉
 痛
 殿

たつ国漢をい甲ゆを元家あゆ

[illegible][illegible][illegible][illegible]

可成やん下ん名ら名と名き名あ名い名ん名の

仁民愛物

雲興
 出產
 無日
 且
 在庭人
 著任
 附
 附

除其庭人未初者被當事敢
 野老以者有侯其役不奉天縣
 厨製其有初酒法邦利使代治法力
 其是之其後其初其初其初其初其初
 校其初其初其初其初其初其初其初

三日

集人佐

雲興
 出產
 無日
 且
 在庭人
 著任
 附
 附



望 賊前名友
 冲清其初初初初初初初初初初初初
 此其初其初其初其初其初其初其初
 通其初其初其初其初其初其初其初
 御其初其初其初其初其初其初其初
 病其初其初其初其初其初其初其初

納游釣鯉為其代價來納之と權持

[illegible]

用、英、米、都、合、動、合、種、を、於、如、之、信、結

神拜を主祭とし、社人等も之に参る

連々以事考之例方儀を是考を世

吳儀智氏而純往利國者處

雲龍保皇會現利良多也

[illegible]

多羅紙面保期満日也
 多羅紙面保期満日也

十二月
賊を破る

立月言 敬告

望
華人佐殿



十二支之圖



篇年冠推意 伊平本末
 多華中興知 女金手牙糸和
 日月手車才 目角口石牙
 古尸山弓弓 百身田東才身
 月宵竹音天 才才イ予平平
 古古古古古 才才才才才
 戸戸戸戸戸 走走走走走
 空二五五五 門門口口口
 片イロハニホ へトチリヌルヲカ
 假ヨタレソツ 子ナラムウ井ノオク
 名ヤてケフコ エテアサキユメミシ
 王ヒモセス シメ片片す下

正月 正月 正月 正月 正月 正月 正月 正月 正月 正月 正月 正月
 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月
 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月
 四月 四月 四月 四月 四月 四月 四月 四月 四月 四月 四月 四月
 五月 五月 五月 五月 五月 五月 五月 五月 五月 五月 五月 五月
 六月 六月 六月 六月 六月 六月 六月 六月 六月 六月 六月 六月
 七月 七月 七月 七月 七月 七月 七月 七月 七月 七月 七月 七月
 八月 八月 八月 八月 八月 八月 八月 八月 八月 八月 八月 八月
 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月
 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月 十月
 十一月 十一月 十一月 十一月 十一月 十一月 十一月 十一月 十一月 十一月 十一月 十一月
 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月

二月 二日 十日 十八日 廿六日
 三月 三日 十一日 十九日 廿七日
 四月 四日 十二日 二十日 廿八日
 五月 五日 十三日 廿一日 廿九日
 六月 六日 十四日 廿二日 三十日
 七月 七日 十五日 廿三日 三十一日
 八月 八日 十六日 廿四日
 九月 九日 十七日 廿五日
 十月 十日 十八日 廿六日
 十一月 十一日 十九日 廿七日
 十二月 十二日 二十日 廿八日

下河邊拾水
 東寺町通松永上町
 美濃源兵衛板

十二支



鼠 子 鼠 子 鼠 子 鼠 子 鼠 子 鼠 子 鼠 子
 牛 丑 牛 丑 牛 丑 牛 丑 牛 丑 牛 丑 牛 丑
 虎 寅 虎 寅 虎 寅 虎 寅 虎 寅 虎 寅 虎 寅
 兔 卯 兔 卯 兔 卯 兔 卯 兔 卯 兔 卯 兔 卯
 龍 辰 龍 辰 龍 辰 龍 辰 龍 辰 龍 辰 龍 辰
 蛇 巳 蛇 巳 蛇 巳 蛇 巳 蛇 巳 蛇 巳 蛇 巳
 馬 午 馬 午 馬 午 馬 午 馬 午 馬 午 馬 午
 羊 未 羊 未 羊 未 羊 未 羊 未 羊 未 羊 未
 猴 申 猴 申 猴 申 猴 申 猴 申 猴 申 猴 申
 雞 酉 雞 酉 雞 酉 雞 酉 雞 酉 雞 酉 雞 酉
 狗 戌 狗 戌 狗 戌 狗 戌 狗 戌 狗 戌 狗 戌
 猪 亥 猪 亥 猪 亥 猪 亥 猪 亥 猪 亥 猪 亥

正月の寅

正月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月
 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥 子 丑



正月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月
 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥 子 丑

下河邊拾

下河邊拾
 下河邊拾

